



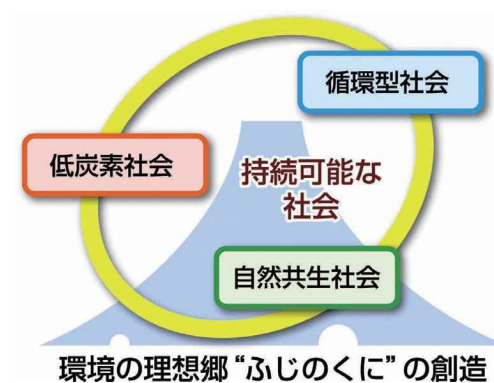
し
ず
お
か
の
環
境

令
和
3
年
版

静
岡
県

しずおかの環境

～ 令和3年版環境白書(概要版)～



令和3年版 環境白書

令和3年12月発行

編集 静岡県くらし・環境部環境局環境政策課

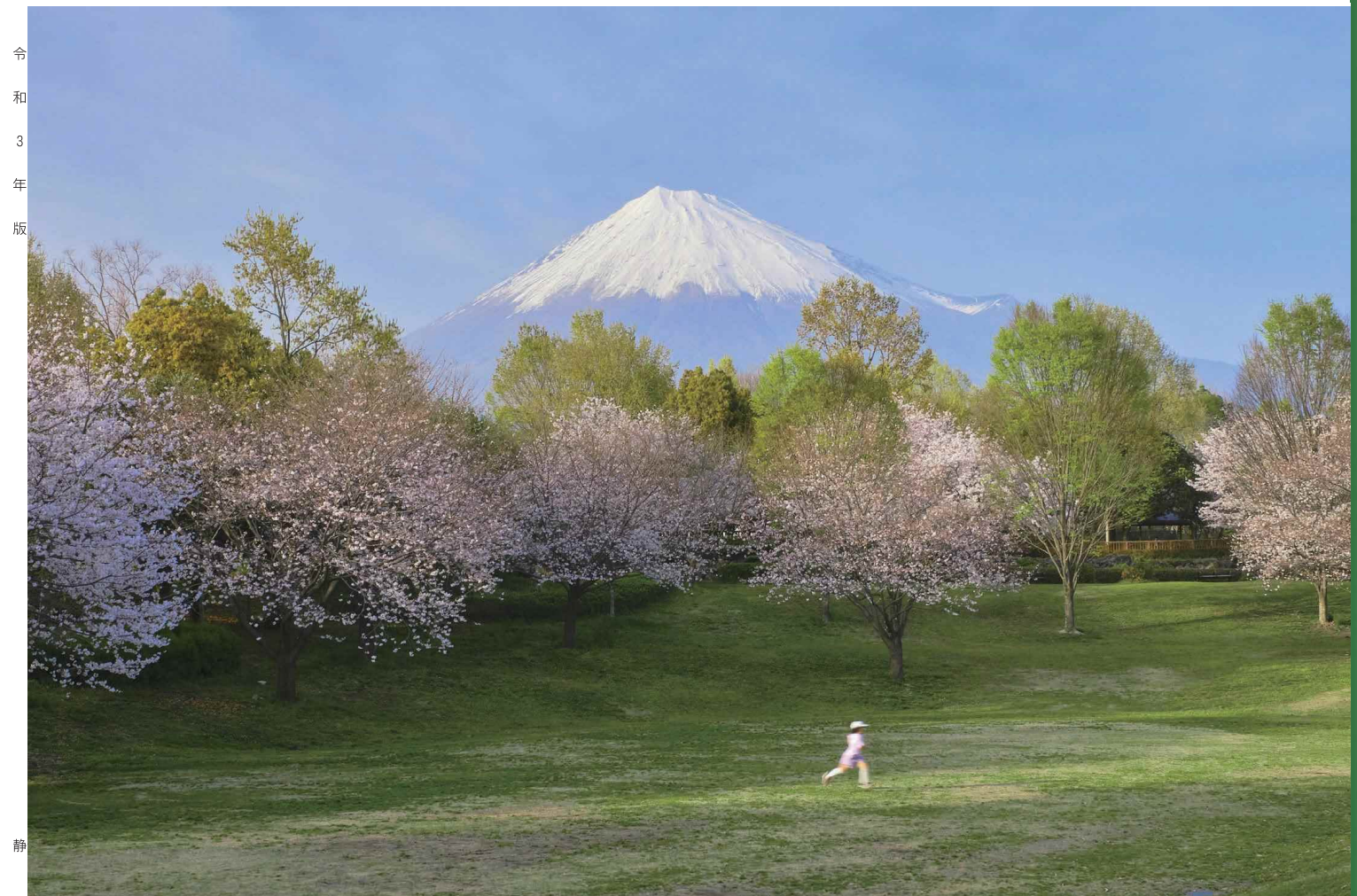
〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6

電話：054-221-3597

FAX：054-221-2940

E-mail：kankyou_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

この印刷物は、500部作成し、1部あたりの印刷経費は157.7円です。印刷用の紙にリサイクルできます。



静岡県

〈表紙〉

令和3年度静岡県さくら写真コンクール「富士山と桜」部門特選
春が駆けてゆく

撮影場所：富士市入山瀬富士西公園 撮影月：4月

この環境白書は静岡県環境基本条例第8条に基づき、環境の保全及び創造に関する施策の実施状況等を明らかにするため、毎年発行しており、主に令和2年度の取組等をまとめたものです。

できることから始めよう！

海洋プラスチック ごみ防止 6R県民運動



Refuse

リフューズ
レジ袋をこたわあへる

Return

リターン
ごみを持ち帰る・店頭回収に出す

Recover

リカバー
清掃活動に参加する

Reduce

リデュース
マイバッグ・マイボトルを持つ

Reuse

リユース
容器等をくり返し使う

Recycle

リサイクル
資源回収に出す



静岡県

お問合せ 産業物リサイクル課 TEL.054-221-2426 hai@pref.shizuoka.jp

静岡県 6R



令和3年版環境白書 目次

トピックス

ライフスタイル、ビジネススタイルの変革	1
低炭素社会に向けた取組	4
循環型社会に向けた取組	7
自然共生社会に向けた取組	9
新たな計画等の策定	12

第1章 静岡県環境の現状と施策の実施状況

I ライフスタイル、ビジネススタイルの変革	13
II 低炭素社会に向けた取組	15
III 循環型社会に向けた取組	17
IV 自然共生社会に向けた取組	19
良好な生活環境の確保	21

第2章 静岡県環境基本計画の進捗状況

1 静岡県環境基本計画の進捗状況の評価	23
2 環境指標の数値の推移	26

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す、国際社会全体の開発目標です。環境・経済・社会をめぐる課題について、17のゴールと169のターゲットが示されています。

SDGsの17のゴール

目標 1（貧困）	地球上のあらゆる形の貧困をなくそう
目標 2（飢餓）	飢えをなくし、誰もが栄養のある食糧を十分に手に入れられるよう地球の環境を守り続けながら農業を進めよう
目標 3（保健）	誰もが健康で幸せな生活を送れるようにしよう
目標 4（教育）	誰もが公平に、良い教育を受けられるように、また一生に渡って学習できる機会を広めよう
目標 5（ジェンダー）	男女平等を実現し、全ての女性と女の子の能力を伸ばし可能性を広げよう
目標 6（水・衛生）	誰もが安全な水とトイレを利用できるようにし、自分たちでずっと管理していけるようにしよう
目標 7（エネルギー）	全ての人が、安くて安全で現代的なエネルギーをずっと利用できるようにしよう
目標 8（経済成長と雇用）	みんなの生活を良くする安定した経済成長を進め、誰もが人間らしく生産的な仕事ができる社会を作ろう
目標 9（インフラ、イノベーション）	災害に強いインフラを整え、新しい技術を開発し、みんなに役立つ安定した産業化を進めよう
目標 10（不平等）	世界中から不平等を減らそう
目標 11（持続可能な都市）	誰もがずっと安全に暮らせて、災害にも強いまちを作ろう
目標 12（持続可能な生産と消費）	生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康を守れるよう、責任ある行動をとろう
目標 13（気候変動）	気候変動から地球を守るために、今すぐ行動を起こそう
目標 14（海洋資源）	海の資源を守り、大切に使おう
目標 15（陸上資源）	陸の豊かさを守り、砂漠化を防いで、多様な生物が生きられるように大切に使おう
目標 16（平和）	平和で誰もが受け入れられ、全ての人が法や制度で守られる社会を作ろう
目標 17（実施手段）	世界の全ての人がみんなで協力しあい、これらの目標を達成しよう

出典：公益財団法人日本ユニセフ協会HP



環境配慮型ふじのくにライフスタイル動画「静岡エコライフ劇場」を作成！



新型コロナウイルス感染症拡大を予防するための「新しい生活様式」が浸透する中、環境に配慮したライフスタイルを提案する動画を作成しました。

学生グループ「静岡時代」編集部所属の大学生が、若者の感性を生かして環境に配慮した新たなライフスタイルの構想を作り、その構想をもとに、浜松市出身の若手映像監督である鈴木研一郎氏がシナリオ作成等を行いました。

各回 30 秒程度、7つのエピソードから構成するストーリー仕立ての動画です。環境への関心を高めるために、広く発信しています。



動画はこちら

エピソード1：マスクはどう捨てる？

プラス・エシカルキャンペーンの実施！



令和2年11月から令和3年2月までの4ヶ月間、人や社会、環境に配慮した消費行動であるエシカル消費の普及・啓発のため、プラス・エシカルキャンペーンを実施しました。

県のエシカル消費啓発サイト「プラス・エシカル」上で、わかりやすい実践例の動画配信や、エシカルを推進する事業者と商品等が集まった「オンラインエシカルフェスタ」を開催しました。併せて、SNSで消費者等からエシカル消費の実践事例を募集し、抽選でフェアトレード&オーガニックコットンのエコバッグをプレゼントするキャンペーンにより、楽しみながらエシカル消費の実践を促しました。



エシカルロゴとチラシ

※エシカルとは…「人や地球環境、社会、地域に配慮した考え方や行動」のこと

「テレワーク対応リフォーム補助制度」を創設しました！



新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、「新しい生活様式」の定着を図るため、令和2年度にリフォーム工事の一部を補助する「テレワーク対応リフォーム補助制度」を創設しました。補助対象工事としては、テレワークのための机の設置や間仕切り壁の新設、感染予防のための抗菌クロスへの張替え、省エネに資する内窓や断熱材の設置などです。

申請は全体で597件、そのうち、省エネに資する工事は約2割を占めており、省エネ住宅の普及に対して一定の効果を得ることができました。

今後も時代の変化を的確に捉え、豊かなライフスタイルの実現に向けた住宅政策に取り組んでいきます。



制度のチラシとリフォーム例



こども環境作文コンクールを開催！



こども達が、家庭生活や学校での環境に関する学習、体験に基づき、環境保全の意義について自ら考え、実践活動など具体的な行動を起こしていくための意識を育むことを目的として、県内小中学生を対象に「こども環境作文コンクール」を開催しています。

令和2年度は、県内の小学校35校から239作品、中学校43校から697作品、合計78校から936作品の応募がありました。



表彰式の様子

浜松いわた信用金庫が環境大臣賞を受賞！



浜松いわた信用金庫によるビジネスマッチングの取組が、持続可能な社会の形成に資する金融機関の取組に授与される「21世紀金融行動原則」最優良取組事例（環境大臣賞・地域部門）に選ばれ、令和3年3月に環境大臣より表彰されました。

同金庫のマッチングにより、自社の遮熱塗装を導入した顧客企業にカーボンオフセット証明書を発行している「株式会社丸源竹内組」が、コロナ禍で地元の間伐材を加工した割箸の受注が減少する「NPO法人せきれい（障がい者支援施設）」に、間伐材を使った証明書用額縁を発注。複数の地域課題を解決し、SDGs推進につながる取組として評価されました。



知事を訪問し受賞報告

富士市環境ウィークを開催しました！



富士市環境ウィークは、環境問題に対する市民・事業者・行政のパートナーシップによる取組や自主的な環境保全活動の推進を目的として開催し、様々な展示物の掲示や講演会、スポーツ自転車の試乗会等のイベントを実施しました。

一部イベントの様子はWeb上で生中継された他、「Web版富士市環境ウィーク」というホームページを開設する等、新しい生活様式に配慮して開催しました。



講演会、展示の様子



静岡市、浜松市が、令和2年度新エネ大賞において新エネルギー財団会長賞（地域共生部門）を受賞

静岡市



静岡市エネルギーの地産地消事業は、清掃工場の発電設備で生じた余剰電力を地域の新電力を介して庁舎、学校施設等の市所有施設（279施設）に供給しています。廃棄物発電からの余剰電力を自治体自ら活用するとともに、小中学校には蓄電池を設置し、電力需給を平準化、非常用電源としても活用可能としています。また、卒FIT電源を買取り、市所有施設に供給する取組みも行っており、全国自治体への広がり期待できると評価され同賞を受賞しました。

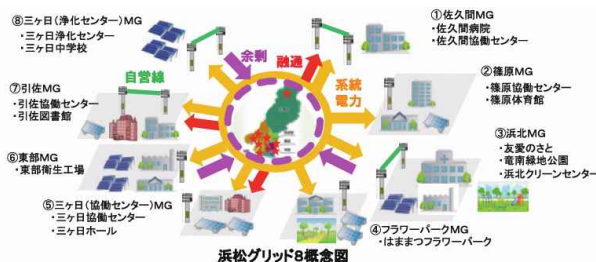


事業スキーム

浜松市



浜松市と（株）シーエナジーは、公共施設8か所に、太陽光発電設備（以下、PV）等を導入、隣接する公共施設を自営線で結び、8つのマイクログリッド（以下、MG）を構成しました。MGには蓄電池も設置し、MG全体をEMS（エネルギーマネジメントシステム）で制御する「浜松グリッド8」を構築。MG内で発生するPV余剰電力も（株）浜松新電力を介して融通することで、PV電力を浜松グリッド8で全て使い切り、CO₂排出削減に貢献。災害時にもPV、蓄電池を活用することで地域レジリエンス向上を実現しました。



SDGs 本・物からのメッセージの開催



清水町では「すぐそこ（底）にある深海」をテーマに、「SDGs 本・物からのメッセージ」イベントを約1か月にわたって開催しました。身近な駿河湾の状況を知って、理解し、好きになってもらい、環境問題を自分事として考えるきっかけを作りました。

身近な深海である駿河湾をありのままに展示したアクアリウムでは、陸から流れ着いたごみと生活をする深海生物の様子を展示し、来場者から大きな反響をいただきました。また、エコバックデザインコンテストでは町内の書店と連携し、多くの募集がありました。

最後に石垣幸二氏による深海生物と海洋環境問題の講演会を実施し、深海生物に関するクイズや実際に引き上げたごみ等に触れ楽しみながら学習できる機会となりました。



アクアリウムと講演会の様子



2050 年ゼロカーボンシティ表明～2050 年脱炭素社会の実現を目指して～



脱炭素社会に向けた潮流が加速する中、県では、令和 3 年 2 月に、川勝平太知事が「2050 年までに温室効果ガスの排出量を吸収量と均衡させて実質ゼロとする、脱炭素社会の実現を目指す」ことを表明しました。県内でも 14 市※がゼロカーボンシティ表明を行うなど、動きが広がりをを見せています。

今後、2030 年度を目標年度とする新たな地球温暖化対策実行計画を策定し、省エネの徹底や再生可能エネルギーの導入、ライフスタイルの変革などの取組を強化していきます。

※ゼロカーボンシティ表明自治体（令和 3 年 10 月末時点）

御殿場市、浜松市、静岡市、牧之原市、富士宮市、御前崎市、藤枝市、焼津市、伊豆の国市、島田市、富士市、磐田市、湖西市、裾野市



環境大臣 メッセージ

環境に優しく、災害に強い水素エネルギーの普及啓発



地球温暖化の進行や石油資源の枯渇など、環境・エネルギー問題への対応の切り札のひとつとして、EV（電気自動車）・PHV（プラグインハイブリット車）・FCV（燃料電池自動車）等の次世代自動車が期待されています。また、異常気象や地震等による大規模災害が毎年のように発生する中、災害時の電源確保に役立つ次世代自動車の外部給電機能が注目されています。

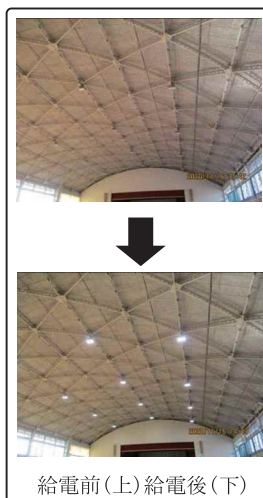
令和 2 年度は、外部電源供給システムが設置された体育館に FCV から給電を行って照明を点灯させ、参加者に FCV が非常時の電源として活用できることを PR しました。

このように、県では環境に優しく、災害時に重宝される次世代自動車の普及促進に取り組んでいます。



MIRAI からの外部給電

給電



給電前(上)給電後(下)



県民運動「ふじのくにCOOLチャレンジ」アプリで脱炭素ライフへ！



温暖化対策アプリ「クルボ」を活用し、地球温暖化防止のための県民運動「ふじのくにCOOLチャレンジ」を展開しています。

このアプリでは、環境に優しい取組に応じてポイントが貯まり、景品が当たる抽選に参加できます。現在、スーパー等でのリサイクルBOX利用、飲食店での食べきり、公共交通利用、次世代自動車の利用など県内約3,500ヵ所でポイントを貯めることができます。

全国でアプリを活用して温暖化対策を行う自治体が増えていますが、県・市町、企業、団体（事業者、消費者）、県温暖化防止活動推進センター等、63団体で構成する実行委員会形式による県民運動として先駆的に展開していることが、本県の特徴です。

また、令和2年12月、環境省主催「みんなで減らそう レジ袋チャレンジ」キャンペーンにおいて、普及啓発部門の最優秀賞を受賞しました。脱炭素ライフスタイルへの行動変容に向けて、ポイント獲得場所やメニューの充実をしていきます。



表彰式の様子

地球温暖化防止活動知事褒賞



県では、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人または団体に対し、その功績を称えるため、静岡県地球温暖化防止条例に基づき知事表彰を行っています。

令和2年度は、温室効果ガス排出削減対策部門として、設備の導入により大幅な削減を達成した（株）リコー沼津事業所と、継続した省エネ活動を実施した（株）エクノスワタナベを表彰。また、地球温暖化防止普及・啓発部門として、生徒が主体的に環境行動を起こし、SNS等を通じて学校を挙げた情報発信を展開した学校法人誠心学園浜松開誠館中学校・高等学校と、地域の花壇の管理、節電・ごみ減量の啓発など、子どもや自治会等に対して温暖化防止の普及啓発を展開した北上えこくらぶを表彰しました。



表彰式の様子



農業用水を活用して CO2 排出削減！



県では、農業用水を再生可能で貴重なエネルギー資源として位置づけ、農業用水を活用した小水力発電の導入を積極的に進めています。これまでに県営事業として4箇所の発電施設を整備し、農業用施設の維持管理コストの軽減やCO₂排出削減の貢献に努めているところです。

令和2年度には、県営中山間地域総合整備事業戸田饗の里地区（沼津市）において、中山間地ならではの落差を活かした最大出力19.9kwの小水力発電施設が新たに完成し、令和3年4月から運用を開始しています。

【戸田饗（もてなし）の里公園発電所】
と設置した発電機



環境配慮措置が特に優れた建築物を表彰します！



CASBEE 静岡による環境配慮計画書が提出された建築物のうち、環境配慮措置が特に優れている建築物の建築主及び設計者を表彰しています。表彰区分は、以下のとおりです。

- ・優秀賞：CASBEE ランクがSの表彰対象建築物の表彰対象者（上位の3件程度）
- ・奨励賞：環境配慮建築物優秀賞以外のS又はA（BEEの値が2.5以上）の表彰対象建築物の表彰対象者
- ・ふじのくに賞：「重点項目への取り組み度」のうち、2項目以上で4.0点以上の得点を獲得した表彰対象建築物の表彰対象者

令和2年度は、優秀賞1件、奨励賞1件、ふじのくに賞2件を表彰しました。



表彰式の様子



受賞した建築物（左から順に優秀賞（ふじのくに賞と同時受賞）、奨励賞、ふじのくに賞）



海洋プラスチックごみ防止 6 R 県民運動の啓発を実施！



毎年800万トンが世界の海に流れ込むと推計されるなど海洋プラスチックごみは喫緊の課題であり、本県独自の「海洋プラスチックごみ防止『6 R 県民運動』」を令和元年度から行っています。

令和2年度は、コロナ禍の中、感染対策を行い富士市やNPOの協力を得て、田子の浦港付近の海岸で県主催の清掃イベントを10月31日に開催し、約100人が参加しました。

また、6 Rを実践した写真や宣言をSNS等で投稿するキャンペーンや、県立中央図書館などでの展示、県内交通機関等での広告など、多くの方の目に触れるよう啓発を行いました。

引き続き6 Rを実践してもらえるよう周知していきます。



県立中央図書館で6 Rの啓発展示



清掃イベントを田子の浦港付近の海岸で実施

調理菓子専門学校やスーパーと協働で「食品ロス削減使いきり実践チャレンジ」を実施



県では、一般廃棄物の削減を目指して、県民が日常的に関わる「食」に着目し、家庭や外食店での食品ロス削減の啓発に取り組んでいます。

令和2年度は、「食品ロス削減使いきり実践チャレンジ」事業を実施し、調理菓子専門学校と協力し、普段捨ててしまうブロッコリーの芯等を使ったレシピを制作しました。また、スーパーマーケットと連携し、制作したレシピや食材の保存方法を紹介したパンフレットを配布し、家庭での「使いきり」の実践を促すとともに、実践内容をアンケートで募集しました。

その結果、約350件の応募があり、「普段捨てていた部分を使いきれた」「食品ロスについて考えるきっかけとなった」等の感想をいただきました。

パンフレットと専門学校が作成した使いきりレシピ



物の有効活用やごみの減量を考える「フリーマーケット」を開催しました！



函南町では家庭に眠っている不用品の再利用とごみの減量、3R推進のためフリーマーケットを開催しました。新型コロナウイルス感染症対策をしながら衣類や雑貨、おもちゃなど33区画の出店、液肥の無料配布等を行いました。また、「STOP!!温暖化」と題して地球温暖化の説明やクルポの推進を、「Let's Try ごみ減量」と題して3Rや雑がみの展示、生ごみ処理機の展示を行い、ごみの減量、食品ロス削減をPRし来場者は楽しみながら身近にできるエコについて学びました。



フリーマーケット、展示場の様子



富士山麓における自主的な撤去活動に助成しています



富士山の世界文化遺産登録を機に富士山の環境保全への関心が高まり、非営利団体等が不法投棄廃棄物の回収・撤去に取り組んでいます。不法投棄廃棄物の撤去は原因者による撤去が原則ですが、世界文化遺産に登録された富士山の保全を図るため、県はこうした団体による自主的な活動を促して、富士山麓に残存する不法投棄廃棄物の回収・撤去を進めています。

平成26年度から、原因者が特定されずに不法投棄され、放置されたままの産業廃棄物の回収、撤去を行う団体へ助成し、令和2年度までに累計で247.78トンの産業廃棄物が回収・撤去されています。

回収された産業廃棄物と撤去の様子



藤枝市の河川におけるごみの実態調査を実施しました！



近年、海を漂流するごみの多くは、河川等を通じて排出される陸域由来のごみと言われています。そこで、藤枝市では市内4河川におけるごみの実態把握のため、調査を行いました。

結果は、市街地から遠く人目につきにくい地点や水が滞留する地点で、投棄されたと思いきごみが多く見られました。内訳は容器包装ごみやプラスチックの割合が高かったです。一方で、河川水中のマイクロプラスチックについては、平均浮遊量が0.42個/m³と目安の1個/m³を下回っていました。

調査結果はごみの排出削減に向けた啓発資料や効果的な抑制対策の検討に活用していきます。



河川から回収されたペットボトル

「ヤッカイ者のモウソウ竹」が「ウマイ静岡メンマ」に！



静岡土木事務所では土砂災害に強い樹林帯（グリーンベルト）を作るため、地域住民や大学生と協働で放置竹林対策に取り組んできましたが、立ち上げ時の問題意識を持った世代が引退し、新たな人材確保や活動の魅力の向上が課題となっていました。

そこで、新しい取組としてこれまで処分していた若竹を活用し、メンマづくりを行い、新聞やテレビ、SNS等により積極的にPRを行ったところ、食品会社とつながることができました。

その結果、放置竹林は地域の有益な資源となり、また、商品自体が広報ツールとなって新たな活動参加者が得られるなど、産官学民一体となることで継続的で循環的な取組を行うことができました。



集合写真



収穫した孟宗竹



美しい南アルプスを未来へ！



南アルプスの独特な自然環境や多様で希少な生態系を守り、その魅力を国内外に発信するとともに次世代につなげる様々な取組を開始しました。

(主な取組内容)

- ・南アルプスの美しい自然環境の魅力や保全の取組等を発信するため、「南アルプスを守るお話」のユーチューブ動画を配信。
- ・県立磐田農業高等学校を「ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナー」として委嘱し、南アルプスを世界の南限とするタカネマンテマ（絶滅危惧種ⅠA類）の種子増殖に取り組む「南アルプス高山植物種子保存プロジェクト」を開始。
- ・国内外の多くの方に南アルプスを守る取組に御賛同いただき、豊かな自然環境を次世代につなげるため、生態系保全と魅力の発信を目的とした「南アルプス環境保全基金」を令和3年3月に創設。



「静岡の茶草場農法」知事顕彰の創設



「茶草場農法」とは、掛川市、菊川市、島田市、牧之原市、川根本町の4市1町で、本県の特産品である茶の栽培において伝統的に受け継がれてきた農法です。高品質な茶生産と茶草場の生物多様性の保全がバランスよく両立された価値の高い農業システムとして、平成25年5月に

「静岡の茶草場農法」として世界農業遺産に認定されました。本農法の実践による美しい景観の形成は、地域の魅力向上にも寄与しており、環境・経済・社会が調和した取組として評価されています。

静岡県では、茶草場農法を維持継承するとともに、その価値を高め、その取組を拡大するため、令和2年度より、茶草場農法に係る他の模範となる優れた取組の顕彰を開始し、3組への贈彰を行いました。



顕彰対象者との記念写真

「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」の活動



美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会では、自主プロジェクト「静岡の海の森づくりプロジェクト」の一環として、かつて相良沖に広く繁茂していた海藻「サガラメ」の藻場を回復させる活動を支援するとともに、子供たちに、海の生き物の命を育む海の森・海藻の役割や大切さを伝える体験教室を令和2年10月に実施しました。

また、静岡のうみ（海・湖）の美しさ、豊かさを伝え、海に触れ、親しむことを促すための冊子を制作しました。会員、県内小学校、図書館等に無償で配付し、会の取組を県内に広く周知しています。



海の森づくり体験教室の様子とPR冊子



県立森林公園指定管理者らによる「森林サービス産業（健康経営分野）」創出の取組



県立森林公園（浜松市浜北区）の指定管理者の㈱ヤタロー及び（一社）フォレメンテあかまが連携し、企業の健康経営に役立つ自然体験プログラム開発の取組が、「森林サービス産業※」モデル地域等創出支援事業（林野庁補助事業）に選定されました。

両社は、森林公園で様々な体験プログラムを実施している団体にも参加を呼びかけ研修会を開催し、先進事例などを参考に、新たなプログラム開発に必要な課題等について意見交換を行いました。

※林野庁・（公社）国土緑化推進機構が提唱する、森林空間を健康・教育・観光等の多様な分野で活用する新たな産業

森林サービス産業 課題解決型研修会



新型コロナウイルス感染症対策を徹底した「新しい森づくり活動」の普及



誰もが気軽に森づくりに参加する機会を提供するため、森づくり団体や地域の方々との連携と協働による「森づくり県民大作戦」を実施しています。

令和2年度の大作戦参加者は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大幅に減少しました。

森づくり団体では、感染症対策の実践や規模縮小、参加者の限定、オンライン活用など活動内容を工夫し、年度後半には、行事数はほぼ回復しました。

県では、感染症対策として、県立森林公園の屋外手洗い場の設置や、森づくり活動における感染症対策の留意点をまとめたリーフレットの作成、感染症対策を実践したモデルイベントの開催などにより、「新しい森づくり活動」を支援しました。



「森の力」を実感～しずおか森の力体験ツアーin 河津の開催～



県は、森林の有する水源かん養や山地災害防止などの「森の力」を回復するため、平成18年度から「森林（もり）づくり県民税」を県民の皆様にご負担いただき、「森の力再生事業」による荒廃森林の整備を進めています。

森と海は深いつながりを有しており、美しく豊かな海を守っていくためにも、森林整備は重要であることから、「森の力再生事業」の整備効果に加え、森と海のつながりを実感していただく「しずおか森の力体験ツアー」を開催しました。

参加者からは、「山の管理や整備をすることで海が作られていると感じた」、「魚をいただくときは山の栄養もいただいているという意識を持つ」との声があがりました。



森の力再生事業整備地で伐採作業を見学



漁業者から森と海のつながりの話を聞く



ふじのくに美農里プロジェクト「本郷ふる郷普請の会」が 関東農政局長表彰で最優秀賞受賞！！



ふじのくに美農里プロジェクト（多面的機能支払交付金）で、現在、県内の232の組織が活動しています。

令和2年度に、「本郷ふる郷普請の会（藤枝市本郷、平成19年設立）」が、関東農政局長表彰において最優秀賞を受賞しました。

当地域は藤枝市郊外に位置し、水路の泥上げや草刈り、遊休農地や沿道への景観植物の植栽、地域の子供への農作業体験、大学関係者を招いた「生き物観察会」や「ホタル観賞会」、小学校への出前授業、企業と連携したビオトープ整備など、多岐にわたる様々な取組が評価されました。



生き物観察会の様子



サツマイモの収穫体験

（株）日立ハイテクサイエンスが公益財団法人日本生態系協会のJHEP認証更新で最高ランクのAAAを取得



（株）日立ハイテクサイエンス富士小山事業所内に整備した約44,000㎡に及ぶ樹林「日立ハイテクサイエンスの森」を、約50年かけて、かつて人々との暮らしと共にあった里山として再生しようという生物多様性の保全・回復への継続的な取り組みが認められ、公益財団法人日本生態系協会のJHEP認証更新で最高評価を取得しました。

平成27年度から、地域在来の植物を活用した広葉樹林化、在来の野草の咲くススキ草地の再生、外来植物の駆除などを実施しています。



ススキ草地の再生活動1



ススキ草地の再生活動2

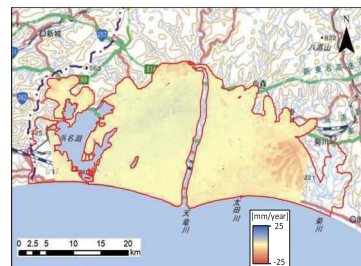


都道府県で初！地盤沈下調査に人工衛星画像解析を導入



県では、地下水の保全と持続的な利用を図るため、昭和54年度から地下水利用が活発で地盤に粘土層を有する県内6地域（沼津・三島、岳南、静岡、大井川、中遠、西遠）で、3～8年ごとに一級水準測量による地盤沈下調査を実施してきました。

しかし、近年の顕著な異常気象等、環境の激変に対応していくためには、地盤変動の広域的かつ速やかな把握が重要なことから、他の都道府県に先駆けて、令和2年度に人工衛星画像解析による地盤沈下調査を試験的に実施し、並行して行った一級水準測量の調査結果と比較検証した結果、必要な精度の確保が確認できました。このため、令和3年度から調査地域を3地域（東部、中部、西部）に再編し、この調査手法を本格導入します。



衛星データを用いた地盤高の変動量解析（2.5次元解析）



人工衛星 ALOS-2（だいち2号）

「富士市富士・愛鷹山麓地域の森林機能の保全に関する条例」を制定しました



富士・愛鷹山麓の緑豊かな自然環境は、水源かん養、生態系の維持などの機能を有するとともに、その美しい風景は私たちの心に安らぎを与えてくれます。この恵みを将来の世代に引き継ぐことを目的に「富士市富士・愛鷹山麓地域の森林機能の保全に関する条例」を制定しました。

富士・愛鷹山麓地域において重度開発を行う事業者に対し、その事業の実施に当たりあらかじめ森林喪失に係る影響の評価や必要な規模の保全措置の実施を求めることで、富士・愛鷹山麓の森林が持つ公益的機能を維持します。



富士・愛鷹山麓